

SPANCRETE CORPORATION

Investors' Guide IR 2017

会社情報



埼玉県看護協会新研修センター(外壁)

株式会社 スパンクリートコーポレーション

本 社

〒113-0034 東京都文京区湯島2-4-3

Tel: 03-5689-6311 Fax: 03-5689-6321

www.spancretecorp.com

JASDAQ 〈 JASDAQスタンダード・コード 5277 〉

● みなさまとのコミュニケーションを大切に ●

インベスターズガイドについて

インベスターズガイドは、株主ならびに投資家のみなさまに、当社の財務内容を正確にお伝えするとともに、みなさまとのコミュニケーションの手段として発行を続けてまいりました。毎年約100通のアンケートの回答をいただき、ご意見の一部を編集に反映させていただいております。今後ともみなさまからのご意見をいただきたいと存じますので、同封のアンケート用ハガキにてお寄せいただければ幸いです。

■ 2017年3月期について

当事業年度における我が国の経済は、雇用環境及び企業収益の改善等から緩やかな回復基調で推移しており、海外における中国を始めとする新興国経済の減速、英国のEU離脱問題、米国の政権交代による経済・貿易政策の不確実性、外国為替市場や資源価格の変動等の不安要素はあるものの、全体としては緩やかな成長を維持しています。

この間、建設業界におきましては、公共投資が弱い動きとなり緩やかに減少する中、人手不足に起因する労務単価の高騰や資材価格の上昇基調の影響も継続しており、東京オリンピック等の需要の増加の兆しも見られるものの、厳しい経営環境が続いています。

このような状況下で当社の業績は、営業の販売強化、製品の品質向上、生産の効率向上及びコスト削減の結果、売上高25億6百万円（前期比11.4%増）、営業利益1億3千4百万円（前期は2億4千8百万円の営業損失）、経常利益1億4千8百万円（前期は2億3千2百万円の経常損失）、当期純利益9千2百万円（前期は15億3千1百万円の当期純損失）となりました。

事業部門別の業績は、次のとおりです。

① スパンクリート事業

当事業は、売上数量が前期比21.6%増加し、売上高は22億2千3百万円（前期比12.3%増）と増収となりました。利益面に関しましては、営業利益3百万円（前期は3億2千4百万円の営業損失）となりました。なお、当事業において減損損失4千8百万円を特別損失に計上しております。

② 不動産事業

当事業は、オフィスビル4棟の賃料収入が安定収益源となっており、売上高2億8千2百万円（前期比4.8%増）、営業利益1億3千万円（前期比63.4%増）となっております。

■ 2018年3月期の業績予想

2018年3月期は、オリンピック関連施設、高層マンション、鉄道のホームドア、冷凍・冷蔵倉庫などの需要増加により売上数量の増加が見込まれ、業績の見通しにつきましては売上高35億8千3百万円（前期比42.9%増）、営業利益1億7千万円（前期比26.6%増）、経常利益1億8千4百万円（前期比23.9%増）、当期純利益1億2千9百万円（前期比40.1%増）を予想しております。

■ 配当の見通し

2018年3月期につきましては1株あたり5円の配当を予定しております。

■ 対処すべき課題

昨今のスパンクリート事業を取り巻く環境は、建築業界の先行きが依然不透明な状況が続いており、原材料価格においても上昇基調にあるため極めて厳しい局面となっております。

今後、中長期的な視点で収益確保に努め、経営基盤の強化を図ってまいります。

当社が取り組むべき課題は、業績にかかわらず次のとおりと考えております。

① 製造コストの更なる引き下げと品質向上

生産体制の見直しを含め、最適生産効率を追求し人員及び経費のスリム化を目指しコストを削減

顧客満足度経営を重視し、顧客ニーズに対する即応体制の整備、製品の品質安定と改善

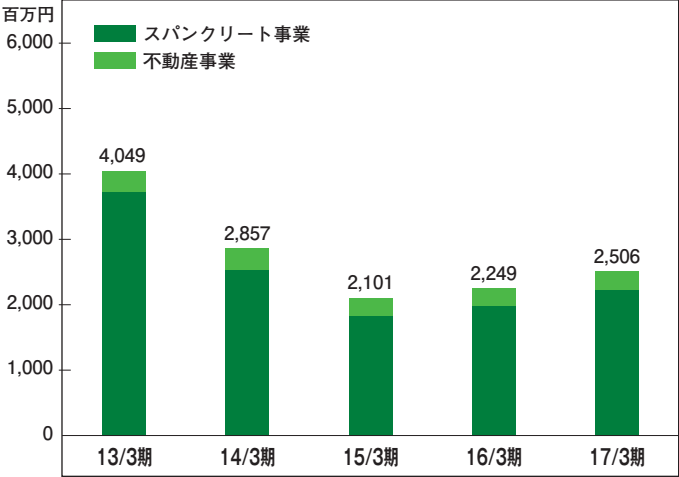
② 販路拡大と新規需要の開拓

販路を深耕させ、業務提携の推進等、更なる顧客の取込と新たな需要の開拓

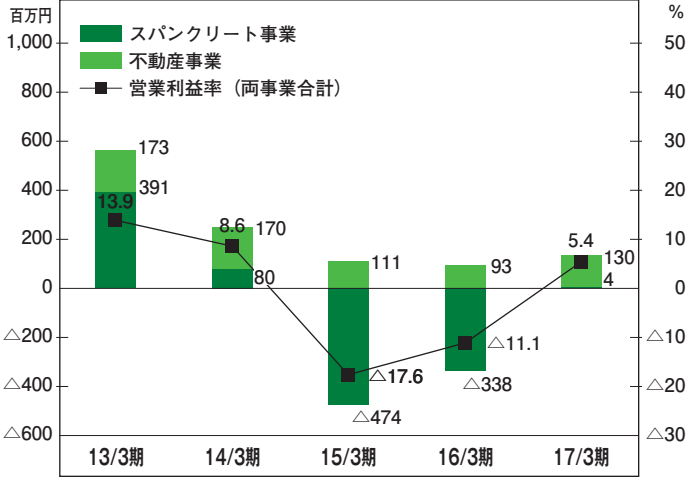
付加価値の高い戦略製品の開発、相対的に利益率の高い商品及びマンション合成床板の拡販

これらの方策を踏まえ、お客様のご要望にお応えするとともに、製品の販売を通じて、企業価値を向上させ広く社会に貢献する企業を目指してまいります。

売上高



営業利益



損益計算書要旨

	15/3期	(%)	16/3期	(%)	17/3期	(%)
売上高	2,101	100.0	2,249	100.0	2,506	100.0
売上原価	1,919	91.3	1,955	86.9	1,908	76.1
販売費及び一般管理費	552	26.3	543	24.1	464	18.5
営業損益	△370	△17.6	△248	△11.0	134	5.4
営業外損益	12	0.6	16	0.7	14	0.5
経常損益	△357	△17.0	△232	△10.3	148	5.9
特別損益	239	11.4	△1,626	△72.3	△48	△1.9
税引前当期純損益	△118	△5.6	△1,858	△82.6	99	4.0
法人税、住民税及び事業税	9	0.5	9	0.4	9	0.4
法人税等調整額他	45	2.2	△336	△14.9	△1	△0.1
当期純損益	△173	△8.3	△1,531	△68.1	92	3.7

スパンクリート事業 2,223百万円
不動産事業 283百万円

スパンクリート事業 4百万円
不動産事業 130百万円

キャッシュ・フロー計算書

	15/3期	16/3期	17/3期
営業活動によるキャッシュフロー 営業活動から得たキャッシュ	△316	41	△234
投資活動によるキャッシュフロー 投資活動から得たキャッシュ	△578	△132	△220
財務活動によるキャッシュフロー 財務活動から得たキャッシュ	687	△465	△173
現金及び現金同等物に係る換算差額	△0	2	—
現金及び現金同等物の増減額	△207	△554	△628
現金及び現金同等物の期首残高	3,050	2,842	2,288
現金及び現金同等物の期末残高	2,842	2,288	1,659

税引前当期純利益、減価償却費、減損損失、仕入債務などによる資金の増加より、売上債権の増加による資金の減少が上回ったため

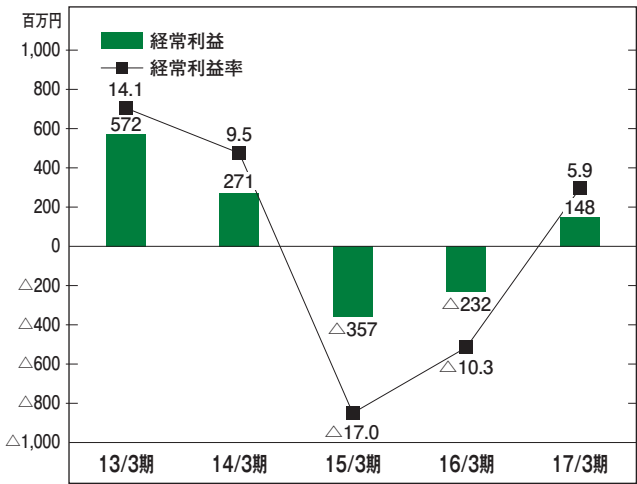
有形固定資産の取得による支出

短期借入による資金の増加より、短期及び長期借入金の返済による支出が上回ったため

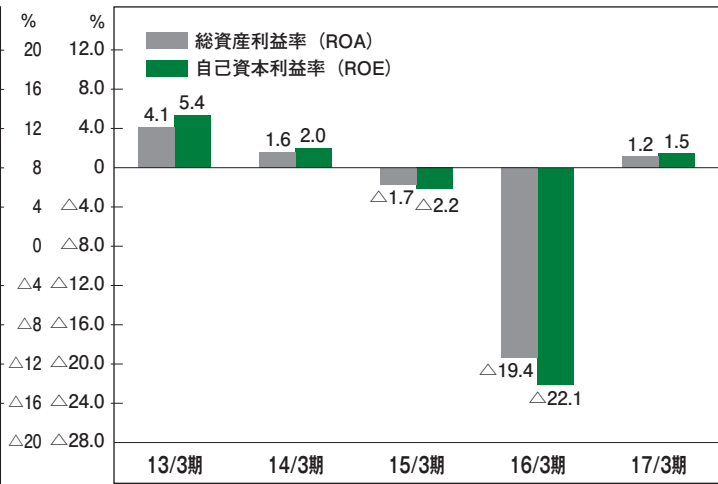
財務諸表コメント

〔17/3期〕 営業の販売強化、製品の品質向上、生産の効率向上及び全社でのコスト削減の結果、増収増益となり3年ぶりの黒字を計上しました。

経常利益



総資産利益率・自己資本利益率



貸借対照表要旨〈資産の部〉

(単位：百万円)

	15/3期	16/3期	17/3期	(%)
資 産 の 部				
流 動 資 産	3,639	2,920	2,830	35.4
現金及び預金	2,557	2,003	1,374	
受取手形及び売掛金等	550	498	Point ① 988	
有 価 証 券	285	285	285	
た な 卸 資 産	175	113	151	
そ の 他	71	19	30	
固 定 資 産	6,608	4,956	5,147	64.5
有 形 固 定 資 産	5,694	4,181	Point ② 4,265	53.4
無 形 固 定 資 産	95	12	Point ③ 69	0.9
投資その他の資産	818	762	813	10.2
投資有価証券	765	717	772	
保 険 積 立 金	10	10	5	
そ の 他	43	35	35	
資 産 合 計	10,248	7,876	7,978	100.0

Point ① 売上、出荷量の増加

Point ② 設備投資

Point ③ システム開発

財務諸表コメント

〔15/3期〕 建設業界の人手不足に起因する労務単価の上昇や資材価格の高止まりの影響により厳しい経営環境が続き、減収減益となりました。

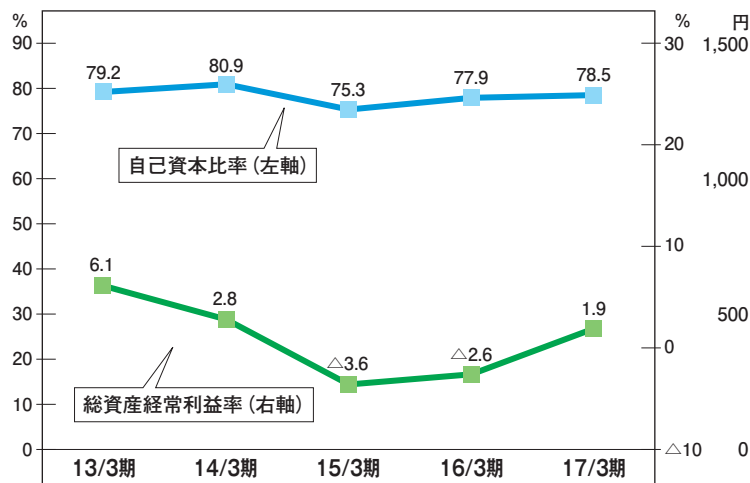
〔16/3期〕 スパンクリート事業及び共用資産に係る固定資産の帳簿価額を回収可能価額まで減額することが適切であると判断し、減損損失として特別損失を計上しました。

貸借対照表要旨〈負債・純資産の部〉

(単位：百万円)

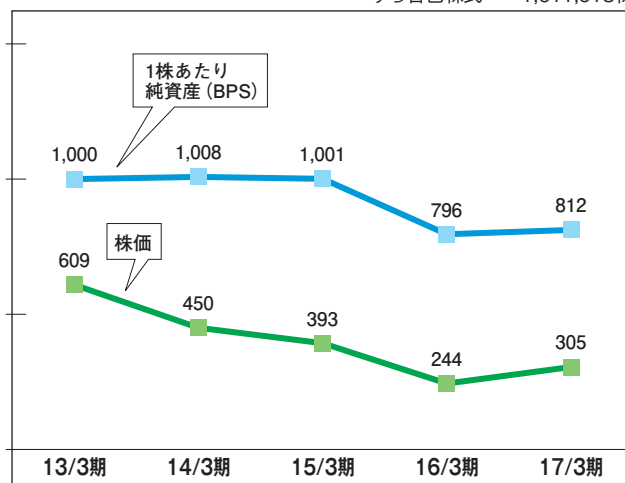
	15/3期	16/3期	17/3期	(%)
負 債 の 部				
流 動 負 債	1,272	978	995	12.5
短期借入金	890	570	500	
1年以内返済予定の長期借入金	101	101	93	
そ の 他	281	307	402	
固 定 負 債	1,253	761	716	9.0
負 債 合 計	2,526	1,740	1,711	21.5
純 資 産 の 部				
株 主 資 本				
資 本 金	3,295	3,295	3,295	41.3
資 本 剰 余 金	3,696	3,696	3,696	46.3
利 益 剰 余 金	150	△735	△643	△8.1
自 己 株 式	△370	△370	△370	△4.6
評価・換算差額等				
その他有価証券評価差額金	268	241	280	
土地再評価差額金	680	7	7	
純 資 産 合 計	7,721	6,136	6,266	78.5
負 債 純 資 産 合 計	10,248	7,876	7,978	100.0

自己資本比率と総資産経常利益率

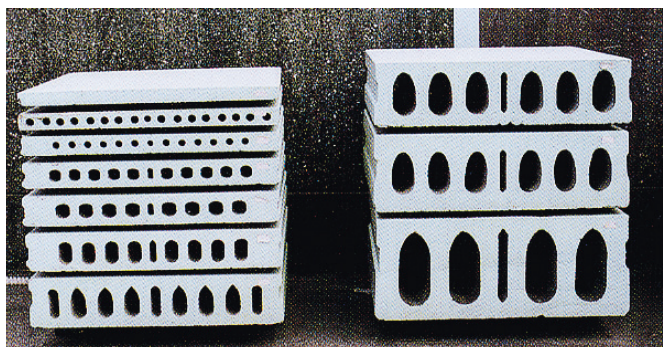


株価の推移 (終値)

期末株式総数 9,320,400株
うち自己株式 1,611,918株



スパンクリート



スパンクリート標準製品。スパンクリートは縦方向に数個の穴をもち、PC鋼線によってプレストレスを与えられたコンクリート板です。床材として、また壁材として建築から土木まで多目的に使用可能な材料です。厚さ7cmから35cmまで17種類。高耐力、ロングスパンが特長です。当社はスパンクリートの生産・販売を行っております。

スパンクリートの特長

高強度部材で大スパンに適します



防水性に優れています



防火性に優れています



遮音性に優れています



主な実績

〈駅〉Mスラブ



乗客の安全性向上のためホームドアが設置され、ホームドア設置部分の床に当社Mスラブが採用されました。既に多数の路線で採用され、東京オリンピックに向けて数多くの駅でホームドア設置が計画されております。今後需要の継続が見込まれる製品です。

〈医療施設〉外壁リブパネル



医療施設に付属するエネルギー供給施設の外壁に採用されました。近隣住民の方々のことを考えデザイン性と遮音性を両立する外壁リブパネルを使用いただきました。

〈魚市場〉外壁・間仕切



老朽化した宮城県の魚市場の建て替え工事の外壁と一部の間仕切り壁に、スパンクリート壁材が採用されました。写真はA棟1期工事の様様です。引き続き2期工事もあり、工事も進んでおります。

〈車両基地〉床



鉄道車両の洗浄台に採用されました。全面に特殊な塗料で重ね塗りを施したため日数と手間が掛かりましたが、スパンクリートに新たな付加価値を持たせる製品として評価いただきました。

〈マンション〉合成床



日本三大祭りのひとつを間近で見ることができるマンションにスパンクリート合成床工法が採用され工期短縮に寄与しました。

〈倉庫車路〉壁



某家電メーカー倉庫の車路ガードレールに目隠し目的で採用された事例です。車路勾配に沿った設計のため、加工形状及び施工に工夫を凝らしました。その結果、仕上がりに高い評価をいただきました。

〈駅〉床



東日本大震災で甚大な被害を受けた鉄道の復旧にスパンクリートが貢献しています。長期耐久性に優れた製品のため、今後の東北復興にも多様な現場への採用が見込まれます。

〈冷蔵施設〉外壁・間仕切壁



日本最大級の冷凍倉庫物件です。外壁、間仕切り、床の一部分に採用され当社の長い歴史の中でも最大規模の倉庫実績となりました。型枠を使用しない即時脱型方式という当社製品の特徴を最大限に生かすことで工期通り効率よく現在施工中です。使用部位によって製品の厚さを使い分けることでコスト削減に貢献し、外壁については特殊幅を使用することで加工ロスを減らし合理化を図りました。

〈倉庫〉間仕切壁



北関東自動車道インターチェンジ付近の物流拠点となる倉庫の間仕切壁に採用されました。倉庫の壁に必要な強度と階高に対応するためスパンクリートが選ばれました。スパンクリートの特性である長尺板を使用することで取付枚数を減らすことが可能となり、施工スピードが格段に上がりました。

ひとこと



代表取締役社長

浮田 聡

日ごろより、株式会社スパンクリートコーポレーションをご支援・ご愛顧いただき、誠に有難うございます。

当社は、2015年3月期及び翌2016年3月期と2期連続で赤字を計上しました。特に2016年3月期はスパンクリート事業の減損により創業以来最大の約15億円の赤字計上を余儀なくされ、株主様をはじめ関係者皆様には大変なご心配をお掛け致しました。

2016年6月に新経営体制移行後、従業員と一体となってコスト削減に取り組んだ結果、業績は順調に回復し2017年3月期には黒字転換を果たし、来る2018年3月期も増益を見込める状況になりました。これは当社の努力のみの成果ではなく、お客様、販売店様また納入業者様をはじめ皆様のご支援あつての結果です。篤く御礼を申し上げます。

幸い今後オリンピック・パラリンピック及び新幹線に繋がる需要の増加が見込まれており、これらに着実に対応する一方、高品位製品の開発により新規需要を取り込み黒字体質の定着化及び早期の復配を実現すべく尽力致しますので、引き続きのご支援を賜りたく、宜しくお願い申し上げます。

会社の概要

1. 会 社 名

(英 文 名)

2. 設 立

3. 資 本 金

4. 役 員
- 株式会社スパンクリートコーポレーション

SPANCRETE CORPORATION

1963年（昭和38年）3月23日

32億9,590万円（2017年3月31日現在）

代表取締役社長執行役員 浮 田 聡

取締役 多 田 昌 司

常務執行役員 分 藤 潔

* 取締役 坪 井 哲 明

* 取締役 黒 岩 征 裕

** 常 勤 監 査 役 森 康 裕

** 監 査 役 松 岡 幸 秀

** 監 査 役 矢 野 千 秋

常務執行役員 田 中 啓 三

常務執行役員 菊 池 透 郎

執 行 役 員 井 上 孝 広

相 談 役 齊 藤 建 次

顧 問 村 山 典 子

(2017年7月1日現在)

*は社外取締役です

**は社外監査役です
5. 本 社

仙台営業所

宇都宮工場

6. 取 引 銀 行
- 東京都文京区湯島2-4-3

〒113-0034 TEL(03)5689-6311

宮城県仙台市青葉区旭ヶ丘3-6-12-208

〒981-0904 TEL(022)272-1901

栃木県宇都宮市平出工業団地8-5

〒321-0905 TEL(028)661-2211

みずほ銀行

三菱東京UFJ銀行

三井住友銀行

みずほ信託銀行

主要取引先

- 設計事務所

商 社

建 設 会 社
- 三菱地所(株)・(株)日建設計・(株)日本設計・(株)佐藤総合計画・(株)日建ハウジングシステム・東電設計(株)・(株)松田平田設計・(株)梓設計・(株)今川建築設計事務所・(株)横河建築設計事務所・(株)ジェイアール東日本建築設計事務所・独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構・(株)久米設計・(株)石本建築事務所 他

三菱商事(株)・三菱商事建材(株) 他

鹿島建設(株)・大成建設(株)・清水建設(株)・(株)竹中工務店・(株)大林組・前田建設工業(株)・戸田建設(株)・西松建設(株)・(株)ピーエス三菱・鉄建建設(株)・(株)浅沼組 他

大株主

- 1 三菱商事(株)

3 村山 典子

5 村山 知子

2 日本スパンクリート機械(株)

4 日鉄住金SGワイヤ(株)

会社の沿革

- 1963年

1964年

1970年

1971年

1975年

1976年

1979年

1982年

1984年

1988年

1989年

1990年

1991年

1992年

1993年

1996年

2003年

2004年

2005年

2006年

2010年

2013年

2013年

2015年

2016年

2017年
- 3月 スパンクリート製造株式会社（旧社名）設立

4月 資本金4,000万円に増資

7月 資本金1億円に増資

2月 宇都宮第1工場屋外生産設備完備 試作開始 営業開始

7月 資本金2億円に増資

10月 宇都宮第2工場建設完了 生産開始

4月 日本スパンクリート協会を設立 会長に当社代表取締役社長村山好弘就任

10月 空胴プレストレストコンクリートパネル工業協会（穴あきP C板工業協会）設立

会長に当社代表取締役社長 村山好弘就任

5月 JISA6511（空胴プレストレストコンクリートパネル）制定される

12月 資本金2億3,000万円に増資

12月 宇都宮工場 JIS 指定工場となる

3月 スパンクリート合成床工法 建設大臣認定を取得

7月 宇都宮第3工場生産設備完了 生産開始

11月 資本金2億9,000万円に増資

5月 スパンクリート合成床工法 特許を取得

10月 資本金4億2,434万円に増資

11月 資本金14億9,759万円に増資

11月 岩瀬工場建設完了 生産開始

2月 スパンクリート合成床工法 発明大賞受賞

2月 社名をスパンクリート製造株式会社から株式会社スパンクリートコーポレーションに変更

4月 スパンクリート合成床工法 科学技術庁長官賞受賞

9月 株式を公開（店頭） 資本金32億3,459万円に増資

4月 当社代表取締役社長 村山好弘 黄綬褒章受章（スパンクリート合成床の発明考案など業務精励）

5月 株式を1対1.4 に分割

5月 岩瀬工場 JIS 指定工場となる

7月 本社を文京区本郷4丁目に移転

8月 Jスラブ（組立床工法）財団法人日本建築センターの構造評定を取得

3月 明星プレテック株式会社（4月プレテック株式会社に社名変更）の株式を100%取得

5月 宇都宮工場・岩瀬工場・設計部 ISO 9001認証取得

6月 原田穰代表取締役社長就任

11月 1単元の株式数を1,000株から100株に変更

3月 プレテック株式会社解散

10月 普通株式1株を2株に分割

6月 齊藤建次代表取締役社長就任

7月 本社を文京区湯島に移転

11月 岩瀬工場閉鎖

生産設備を宇都宮工場に統合

6月 飯牟礼聡代表取締役社長就任

6月 東日本旅客鉄道(株)とホームドア設置用床の共同特許取得

11月 コージェネレーションシステム導入

6月 浮田聡代表取締役社長就任

2月 新製品「クレストウォール」販売開始

(高橋カーテンウォール工業(株)との共同開発)



宇都宮工場